

114  
A 3592



貿易一圓銀ノ儀ニ付安藤領事ヨリ書簡ニ添フタル横文

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄  
816

日本帝國政府ト東洋銀行ノ間ニ結盪スル約定書宗  
及那及ニ其他ノ外國貿易ヲ為メニ開キタル諸港ニ於テ日

本貨幣ノ外國流通貨幣ニシテ一般流通セシムル一層容易ナラ  
シメンカ為メ我輩即チ大藏卿大隈重信ハ日本政府ノ為メ東  
洋銀行社負タル「デヨン、ロベルソン」ハ東洋銀行ノ為メ爰ニ  
左ノ條々ヲ盟約ス

第一條

東洋銀行ハ依然是迄ノ通り日本帝國造幣局ノ為メニ外國銀行  
者タル可シ

第二條

造幣局ニテ鑄造セシ貨幣ハ悉テ東洋銀行ノ神戸支店ヲ手ヲ經  
可シ





第二條

東洋銀行ハ性合ノ善惡ヲ検査セシ為メニ鑄造貨幣百分中若干ヲ勝手ニ換取リ試験分析ヲ行ヒ而メ之レヲ簿冊ニ留ム可シ

第四條

第三條ニ從ヒ換取ノ上分析セシ試験片ハ東洋銀行ニ留メ置キ退テ造幣局官吏ノ求メニ應ヒテ渡ス可シ

第五條

東洋銀行ハ試験分析及ヒ検査等ノ為メニ手数料ヲ求メス鑄造總額ノ百分一ノ八分一ヲ造幣局ヨリ領収ス可シ

第六條

若シ造幣局官吏此ノ約定ニ背リテアルニ於テハ東洋銀行ハ万爭其ノ随意ニ所分ス可シ

第七條

約定期限ハ口ニテ後何年ノ間トス但シ此ノ約定ハ東洋銀行取締役ノ責ニ任オレモナリ

六  
歳  
省



